



楫友会報

発行
東京都立
久留米西高等学校
同窓会
0424(74)2661-3

会長あいさつ

二期 小田切 幸久

残暑が夏の名残を印象づける今日この頃、皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。

さて、今春の楫友会会員名簿の発行、配布に際しましては、実際に実物を手にされてご覧になられた方々から、さらに数々の貴重なご意見や情報を寄せて頂くことができ、改めて、形あるものの有意義さと会員相互の潜在的な連帯感の強さを痛感致しました。

この紙面をお借りして、心より御礼申し上げます。

この度、会員名簿発行に続きまして、本会の会報を1979年8月の発行以来、13年振りにようやく復活させることになりました。

本来では会報が、会員相互のコミュニケーションツールとして、また、母校の近況を伝える情報源等として貴重な存在であるにも拘らず、長き



92年度同窓会総会

年月に亘り、空白の時間を経過させてしまいました。今後はその反省の念を反映させ、会員の皆様へ細やかながらも当会や母校の特報をお届けする媒体として、その機能を発揮させてまいります。

本号は復活第1号としては、掲載されている内容に唐突さを感じられる方もいらっしゃると思います。が、編集発行に当たって頂く方々をはじめとする、各会員の皆様からの情報やご協力を以て、徐々に時事に合致し

た姿になるものと考えております。つきましては、より親近感が持たれる紙面作りと発行回数増加に努力致しますので、会員各位のご支援を賜りたく、宜しくお願い申し上げます。

創立二十周年を

前にして

校長 原 口 幸男

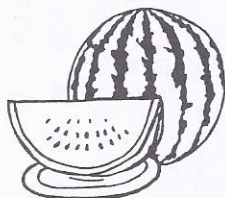
同窓生諸君。久留米西高等学校が創立されてから、来年で二十周年を迎える事となった。まことに月日のたつのは早いもので、来年秋には創立二十周年記念式典を挙行すべく、学校内に準備委員会を設けて、すでに記念行事の準備を開始している。

その内容として、記念誌の発行、記念式典の挙行が予定され、祝賀会等いろいろ同窓会の方々にもご相談をしなければならぬ。この間昭和四十九年四月第一回生を迎えて入学式を挙行して以来、本年三月の第十六回卒業生にいたるまで、五千六百四十九名の卒業生を社会に送り出し、卒業生諸君はそれぞれ分野で本校の卒業生であることを誇りに立派に活躍をしている。

まことに、初代校長の杉浦武先生が本校創立にあたり掲げられた教育目標の「すすんで学び、すこやかで、

思いやりのある人をつくらう」の言葉どおり、自主・自立・自発の精神と、心身ともに健やかで、思いやりのところを中心とする人間性豊かな卒業生諸君が、本校を母校として巣立っていったものと確信している。本校は、創立十九年をへた今日に於いても、今なお武蔵野の面影を色濃く残す、緑豊かな環境に恵まれている。とくに、校章となった楫の葉のもととなった校舎裏手の雑木林から、緩やかな傾斜をへて黒目川にいたる校地は、春は正門より桜並木や草地のなかに色とりどりのチューリップなどがまことに素晴らしい。小綏鶉や郭公などの野鳥の声もどこかである。

近年、中学校の卒業生徒数の減少により、施設に多少の余裕ができてきた反面、生徒急減期の生徒募集の問題等、本校も荒波をかぶらなければならぬ問題が迫ってきている。同窓の諸君のご支援を乞う次第である。



同窓会に思う

前校長 石 黒 功

今まで何度となく計画されたが実現されなかった同窓会の会員名簿が発行されました。会長さんをはじめ役員の方々、お世話して頂いた先生方、大変ご苦労さまでした。また、それを契機として、同窓会が再び活動し始めました。喜ばしい限りです。同じ学び舎で青春時代を過ごした者どうしが、健在を確かめ合い、連帯の絆を深め合うのは、いいものです。

卒業以来、初めて会っても、「やあ！」のひと言で、まるで昨日まで毎日顔を会わせていたように、すぐにとけ込めるのも、机を並べて研鑽し合った友達の有難さです。

先輩・後輩が年齢を越えて、それぞれの専門を生かして助け合うなどというのも悪いことではありません。同窓生諸氏には、それぞれが選んだ道で鋭意努力されていることは思いますが、健康留意にされて、さらに活躍し、発展されるひとを願ってやみません。

専門学校

十六期 野 上 裕 一

高校を卒業して、僕は専門学校に通っている。そこにはギタークラブト科といるのがあり、今僕はギターを作っている。実際にはほとんど機械などを使って、一〜二日ぐらい、塗装も含めて二週間ぐらいで一本できてしまうらしいが、学校では手作業がほとんど、ノミや鉋などを使って三ヶ月ぐらいかけて一本作る。これがけっこう大変で、1ミリずれるとか0.5ミリ削ってだとか、けっこう細かい。おかげで完成に近づくにつれて喜びも段々と上つてゆき、完成した時のうれしさときたら……。そして提出。先生に採点してもらった。これがまた高得点でクラスで二位の点数をもらった。(自慢音もなかなか良く、弾きやすいし、なによりとても綺麗で大満足。

7月31日に、バットランスというバンドのジェイク・E・リー(G)とグレッグ・チェイスン(B)の特別講義があった。音楽ビジネス科の人達とセッションなどをやったりしてすごく良かった。

僕の通っている学校はなかなか良いところだが、中には入学金をもち逃げするところや、入学後教材代とか年会費だとか言つて金ばっかり取

る学校があるので専門学校選びにはくぐれも注意しましょう。そういうこと。

高校卒業後の僕

十六期 西 澤 信 一

私は今年久留米西高校を卒業し、ESPミュージカルアカデミーという専門学校でギタークラブについて学んでいます。この学校はギタークラブト科以外に管楽器リペア科・ピアノ調律科等の音楽に関するほとんどの科があります。

ギタークラブト科ではギターの製作から、ギターがどのように現在の形になったのかといった歴史や修理などを学びます。又、クラブト科は二年制で一年次に三本〜五本・二年次には四本〜六本程度のギターやペイスを製作することになっていて、将来、工場や工房で働きたい人達ばかりの集まりで、みんな音楽や楽器が好きで、作業もまじめに取り組んでいます。私も将来は工房で働きたいと思つていますが六月に一作目を完成させ、今は二作目へと力を注いでいます。

社会人となつて

十六期 増 田 圭一郎

卒業して早四ヶ月、自分の仕事にもそろそろ慣れてきたころだ。毎日を精一杯生きているせいか時間が過ぎるのが早い。入局した日を昨日のように思いだす日もよくある。入りたいところは回りの雰囲気にも飲まれることもしばしばあった。でも、いまでは少し自信も持てるようになった。

学校生活時代と変わった所があるとすれば二つほど挙げられる。一つは、「自分のすることは、絶対の責任を持つこと」そして、もう一つが「自分のやったことに、大きな自信をもつこと」この二つである。他はさほど変わらない。・・・変わらない筈だ、なぜならみんな社会に出て働くために学校に行くのだから、学校を卒業してみても初めて僕の生きがいが見つかった。働くことはすばらしい事である。



92年度総会報告

平成四年六月二十八日久留米西高会議室にて八百十一名(委任状含む)の出席にて開催された。

総会に於て三年度活動報告、決算報告がなされた後、四年度役員が選出され、規約改正案が提案され多数の賛同を得て原案どうり承認された。

平成四年度役員

- 会長 小田切 幸久 (二期)
 - 副会長 浅見 博 (四期)
 - 書記 西山 嘉彦 (〃)
 - 書記 益子 貴子 (五期)
 - 書記 吉田 則久 (九期)
 - 書記 石黒 重久 (二期)
 - 会計監査 江本 康子 (二期)
 - 会計監査 高橋 功爾 (一六期)
- 規約改正
第三章第一三條
新 定期総会は、毎年一〇月中の日曜日に開催される。
旧 定期総会は、毎年五月第二日曜日に開催される。

92年度同窓会決算報告

2. 支出の部

費用	支出額	備考
会議費	250,767	総会・幹事会
通信連絡費	507,660	総会通知用連絡費他
印刷費	10,626,080	会員名簿・規約印刷発送他
部活動補助費	745,870	関東大会出場ユニホーム等
慶弔費	105,000	香典
周年記念誌	200,000	10周年記念誌
雑費	58,480	事務用品
合計	12,493,857	

1. 収入の部

費用	収入額	備考
会費	16,944,000	1回生～16回生分
銀行利子	4,763,745	
雑収入	85,393	学年費返還金端数分他
合計	21,793,138	

3. 収入決算

収入総額	21,793,138	
支出総額	12,493,857	
差引残高	9,299,281	(翌年度へ繰越)

同窓会役員就任にあたって

四期 浅見 博

昨年度より名簿作成等の仕事でおてつだいさせて頂いた頂きましたが、今回の総会で正式に副会長として就任いたしました。微力ながら一年間がんばってゆこうと思います。

とりあえずの目標は、79年8月31日に発行されて以来ずっと休刊していたこの会報を復活させ、年一回程度発行を続けていけるよう軌道づくりしていくことにあります。

その他にも同窓会費の見直し、創立20周年に向けての企画等課題は多いのですが、仕事や子育てにおわれ後手後手に回ってしまうのが現状です。やはりオジさんオバさんばかりでは限界を感じます。

とつ、いうことで同窓会の仕事をてつだってくれる若い方(自称若い人も可)募集します。我こそはと思った方、ぜひとも各役員まで声をかけてください。心よりお待ち申し上げております。



進路状況

久留米西高校の最近の大学・短大の合格状況は左の表の通りです。

過去3年間の大学・短大合格状況

	平成2年度	平成3年度	平成4年度	合計
大(現役)学	男	11	12	17
	女	2	17	10
大(浪)学	男	22	29	59
	女	4	11	15
短(現役)大	男	2	3	1
	女	36	50	29
短(浪)大	男	0	2	1
	女	1	2	4
合計	76	126	136	

(久留米西高校進路資料より)

表を見てもおわかりのように、大学や短大への合格者が増加傾向にあります。教員と生徒が一体となって努力した成果が数になって表われたものであるかと思われれます。今後の頑張りをお願いいたします。

学校の現況

91年度

(転退職)

小田原 栄教頭 都教育庁人事部
 中村宜信先生 都立第四商業高校
 村山秀隆先生 都立工芸高校(定)
 杉浦克己先生 退職(放送大学)
 浦川明彦先生 都立本所工業高校
 永井宣昭先生 退職(都立豊島高校)
 飯島とみ子先生 退職(聖徳大学)
 鎌田勝利主任 都立清瀬養護学校
 新田慶子主事 都立清瀬高校

(着任)

松田 勝教頭 都立拝島高校
 宮本雄亮先生 都立篠崎高校
 工藤 昭先生 都立大泉高校(定)
 古畑孝利先生 都立杉並工業高校
 大池和子先生 新規採用
 渡辺 行主任 都立大泉高校(定)
 沼倉孝子主事 新規採用

学校の現況

92年度

(転退職)

石黒 功校長 退職(都立山吹高校)
 大門光男先生 都立鷺宮高校
 増田正夫先生 都立国立高校教頭
 森川幸彦先生 新潟県立栃尾高校
 飯村典子先生 都立九段高校
 岡崎富雄先生 退職(秋草学園高校)
 徳富敏子主事 都立瑞穂農芸高校
 木村孝利主任 都立大島高校
 下村みさ子主事 小山小学校
 謝花みうた主事 都立小金井北高校
 鈴木昌子主任 都立清瀬東高校
 富田俊夫主事 退職

(着任)

原口幸男校長 都立小平南高校
 梅林信夫先生 都立小石川工業高校
 山田春雄先生 都立久留米高校
 鴻野 誠先生 都立墨田養護学校
 高瀬貴美子先生 都立赤羽商業高校
 菅野みよ子主事 都立大島高校
 櫻井麻美主事 都立武蔵丘高校
 上杉和子主事 都立久留米養護学校
 印南貴子主事 都立田無工業高校
 吉内朝子主任 都立清瀬東高校
 関 寛治主事 都立石神井養護学校

今の久留米西高校を

見に来てください!!

生徒会長 渡邊 智哉

今年も九月二十二日から榎葉祭を行います。

統一テーマは「EVER ONWARD」です。

ARDD「未来に向かって」です。今だけを見て行動するのではなく、先のことまで考えて行動するなど、深い意味が込められています。

年々クラスも減り、なんとなく寂しい気もしますが、そこは、久留米西校生の団結力を活かして盛りあげてくれるでしょう。

今年も今までは違う試みをしていきます。今までは一味も二味も違う文化祭となることでしょう。

暇がなくても是非お越し下さい。

日時 九月二十二日 十時～十六時
二十三日 九時～十五時

その他・入口は正門のみとなります。

たので御注意ください。

受付でプログラムをおうけとりください。

・上履きを御持参ください。

編集後記

榎友会報の第二号を発行してから約十年の歳月が経過しました。ここに第三号を編集し、皆様のお手元へお届けいたしますので母校を想い出していただければ幸いです。

今回の編集に際しましては、西校の行事予定を掲載したために短期製作を余儀無くされ、ご無理とは知りながら原稿を受けて下さった方々をはじめ、ご指導を頂いた筒井先生、榎友会役員の方々にお礼を申し上げるとともに、今後この会報を定期的な発行するために会員の方々の寄稿や紙面に対するアイデア等、製作への参加をお待ちしています。

